

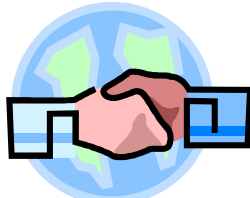
「三浦市海上交通実験プロジェクト事業」実証実験実現！！

昨年の暮れ、12月27日(土)及び28日(日)に、東京竹芝桟橋と三崎漁港を高速ジェットフォイル船で結ぶ旅客運航実験が、(財)地域活性化センター所管の「移住・交流受入システム支援事業」及び国土交通省・関東運輸局所管の「関東交通プランモデル施策事業」を活用した、『三浦市海上交通実験プロジェクト事業』として実現したことを皆様はご存知でしょうか。

筆者は、平成19年の12月に、本事業担当者として「ぼっこすこせえる」第17号で本事業を紹介し、海の玄関口としての三崎漁港の賑わいを期待していましたが、これが関係機関の皆様のご協力により実現して、両日合計で995名の乗船客をお迎えするという、大きな成果を上げることが出来ました。

一これは、両日も「快晴」と天候に恵まれたこと、実施日を「三崎まぐろ祭り・年末ビックセール」と一部重ねたこと、新聞をはじめとしたメディアで多数取り上げていただいたこと、そして関係機関等の多大なご協力があったことなどが大きな要因ではあったことは間違いありません。この中で、筆者の心に残った二つのエピソードを紹介いたします。

東京竹芝桟橋のある港区、その隣接区の千代田区、品川区、大田区の関係機関へ、お客様獲得のためにゲリラ的に営業に回った時(本事業は実験であることから、この成功には多くのお客様からのニーズ把握等が不可欠であり、集客に奔走しました。)のことです。



一つは、筆者の生家(三浦市諸磯)の隣人で、現在は横浜市内に在住している T.S 氏が、港区役所の管理職となっていることを平成20年春にお互いが生家を訪れた際の偶然の再会によって知り、営業訪問予

定日の前日に「駄目で元々」を覚悟して彼に連絡を入れてさせていただきました。そうすると、小気味良いフットワークで当方が予定していた関係各課と事前調整してくださり、訪問日に次々と担当者に引き合わせていただきました。このおかげで大きな目的であった港区の広報紙である「広報みなと」への本事業の記事掲載が実現することとなりました。遙か昔30余年前、筆者が小学校の集団登校班長として彼の手を引いて登校していた頃に想いが馳せますが、あの小さく幼かった彼が故郷三浦のために協力してくださったのです。



もう一つは、本事業の乗船券購入を千代田区役所の職員厚生会事業の対象としての取り扱いをお願いするため担当部署を訪問した際のことです。対応をしてくださった M.S 氏が当方の説明を熱心に聞いてくださった後に、迷うこともなく「判りました協力しましょう。実は私は三浦市の出身です。実家もあります。年末にこの航路で実家へ帰るというのも面白いですね。」とその取り扱いを快諾してくださいました。頂戴した名刺を再確認すると、そこには三浦市上宮田地区に多く存在する「姓」が記載されており、また、ここでも三浦市出身者のご協力により事業周知が加速されることになったのです。

一のように、三浦市の外にも三浦市のために協力してくれる人達が存在したことに、筆者の心細かった気持ちは励まされ、お二方の存在が誇らしく思え、筆者の心に印象深く残りました。そして筆者は、このことを通じて、縁(えにし)の大切さについて再認識し、今後の業務執行においても縁(えん)を大切にしていきたいと強く思いました。

また、紹介したエピソード以外にも、三浦市に縁(ゆかり)のある方々をはじめとした関係者の皆様方が「あったかい」手を差し伸べてくれたお陰で本事業

業がおおきな成果を成し得たのだと痛感して止みません。文末に、ご協力をいただいた皆様方に対し、この場を借りて心からの感謝を込め御礼申し上げます。

(政策経営課 楠本 育男)

暴論オピニオン (23)

三浦市政策経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなんでしょう。

言葉の説明能力

「う蝕」という言葉をご存知か。役所生活も相当長い中、恥をさらすが、筆者はその言葉を知らなかった。8人いる部下に「知ってる？」と聞いたが、回答は4対4であった。その意味で筆者の無知は責められるべきであるが、知らなかった職員が4人いたことも事実である。知っていた職員は福祉経験者である。無知の言い訳をしているようで恐縮だが、「う蝕」は一般的に理解される単語ではないと思う。手元にある1991年版の広辞苑を調べたが、「う蝕」は載っていない。ウィキペディア(Wikipedia)には「口腔内の細菌が糖質から作った酸によって、歯質が脱灰されて起こる、歯の実質欠損のこと」と書いてある。むし歯とニヤイコールである。また、「むし歯」は業界用語で正確には「う歯(うし)」というらしい。

前置きが長くなったが、問題は、「う蝕」が行政計画に記述されようとしていたことである。平成21年スタートの基本計画と実施計画の原稿が、長く辛く多忙な毎日を経て、ようやく出来上がったが、そのチェックの過程で「う蝕」が目にとまった。実施計画の「成人歯科健康診査事業」の説明の中で使われようとしていたのである。

総合計画の実施計画は、計画期間に予定する事業の

内容や予算や手法を、市民や市議会にお示しし、以後、事業の進行管理に活用することを目的としている。

つまり、市民に説明することが最初の目的である。そこに「う蝕」が使われようとしていたことに問題意識を持たざるを得ない。事業の説明文は担当課の職員が作文するが、職員の資質を問題にしているのではない。問題は、専門用語を市民向けの説明文に使う組織としての文化(?)である。「役所言葉」という言葉がある。役所だけで通用する言葉のことを称するようである。「う蝕」は「役所言葉」というより専門用語であろうが、市民(多くの市民)には通用しない点で、同類である。

役所言葉や専門用語を並び立てるには、それなりの知識や能力が必要である。聡明な頭脳も必要かもしれない。しかし、相手に伝わらなければ何の意味も持たない。市役所はまず、そのことを理解していなければならない。「う蝕」という専門用語でなければ正確ではない・・・というのが専門家の常識かもしれない。しかしこの場合、「むし歯」を使うべきではないだろうか。

正確でなくても、伝わればいい！！

「可及的速やかに対処します。」という国会答弁は、「しばらくは何もしない。」と翻訳されるようである。伝わらないことが、いずれ不信感を招くこともある。

役所言葉や専門用語を市民に伝わる言葉に代えることは、逆に高いスキルが要求される場合があるが、市民に伝わる言葉を、市役所全体の文化とすべきである。

「ぼっこすこせえる」とは・・・神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。

次号(第32号)は3月19日発行です。



3S市長の経営視点

三浦市長の吉田ひでおです。時折、春の暖かい日差しを感じることもありますが、温暖な三浦でもまだまだ底冷えする寒い日々が続いています。

そんな寒空の下、2月2日(月)に市立三崎小学校の児童による「三崎、大好き」～広めよう 高めよう・三崎の力～をテーマとした発表会が行われました。学校を飛び出し、三崎下町商店街へ繰り出して、創作ソーランなど日頃の練習の成果を発表する催しで、子どもたちの元気な姿に地域の方々も元気づけられた様子でした。

近年、学校は、安全上の問題から気軽に門戸を開くことは難しく、地域との触れ合いが少なくなりつつあるのではないかと危惧しています。一方で、スクールガードなど、地域の方々のかこそ、子どもたちの安全を見守る大きな力であると思っています。各学校でそれぞれ事情は異なりますが、こうした地域との触れ合いによって、子どもたちが地域を元気づけ、子どもたちが地域に守られる・・・そんな双方にとってより良い関係が築かれるのではないのでしょうか。

“あったかいまち”三浦でこそできる地域と子どもたちの関係に誇りを持ち、こうした輪を広げたいと思います。